

# 平成30年度第3回佐世保市立学校給食検討委員会

## 議 事 録

- 日 時 平成30年11月1日（木） 午後7時から7時40分
- 場 所 佐世保市役所 1階イベントホール
- 出席委員 水江委員 千代島委員 中山委員 古賀委員 松永委員 吉田委員 村雲委員  
重信委員 浜田委員 9名
- 欠席委員 長富委員 古田委員 加藤委員 塚元委員
- 事務局 西本教育長 池田教育次長 陣内教育次長兼学校教育課長 吉富学校保健課長  
佐世保市学校給食センター林所長 岸川 浦山 江湖
- 教育委員 久田教育委員 深町教育委員
- 傍聴者 8名
- 会次第 1 開 会  
2 教育委員会あいさつ  
3 議 事  
(1) 「学校給食調理場の今後のあり方」について  
(2) 意見交換  
4 事務局からの連絡事項  
5 閉 会

---

### ◆議 事

【会長】 これより議事に入る。まず会議の成立を確認する。

会次第の一つ目、昨年、諮問を受けた「学校給食調理場の今後のあり方」について、答申案を事務局から説明をお願いします。

【事務局】 説明に入る前に資料の確認を行う。

※本日の資料 の確認。

【事務局】 資料の説明。

それでは資料に基づき説明をする。

【会長】 ただいま、「学校給食調理場の今後のあり方」について、答申案の説明があった。これに関して、皆様からのご意見、ご質問等をお願いします。

【委員】 まず冒頭に言いたい答申書の中身の事を置いて、2枚目が議事録の抜粋ということで、議事録の修正をしなかった私が悪いが、これが提出されるベースになるわけだから、明らかに違うものだけ修正をしていただければと思う。2枚目の1. の4行目から5行目にかけて「バイオレス」と書いてあるが「ウイルス」である。2. の2行目「リスクが少ないと感じるのは、焦燥ではないか」のところ、「リスクが少ないと断じるのは、尚早ではないか」である。4. の4行目「システムマチック」の

ところ「システムチック」のことである。文言の修正は以上である。それから、1枚目の本来指摘をしなければならない、意見を言わなければならないと思うが、附帯事項の②-2の最後のところ、アレルギー対応食・食中毒防止等に配慮した施設を建設でいいのか。設置ではなくて。建設と書くと新しく作るだけである。既存施設の改築であったり、そういったことの可能性を潰してしまわないかと思う。

【事務局】建設ということは建てるということだが、そこまで踏み込んで言うかどうかは別にして、共同調理場については、配慮した施設とすることということで、すっきりさせたほうがいいのかなとご指摘を受けて感じた。

【委員】パッとイメージが浮かんだのが、統廃合によって使われなくなった学校を改造するという方法もあるのではないかと思ったもので、更地にして建設するよりはコストが安いのではないかと思った。建設と書いてあると、この委員会が作るということ、イメージは最初そうだったと思うが、可能性を奪うような言い方をしないほうがいいと思った。それから、教育委員会事務局を含めて行政の案を確保するためでもあるが、一番最後の行の、工夫しながら自校方式の維持に努めることと書いてある。特にアレルギーの問題が大きくクローズアップされているので、老朽化して行って自校方式の給食室が使うのがだんだん難しくなっていく中で、ではアレルギー食だけはセンターから運ぼうかというようなアイデアが、こう書いてあると何がなんでも工夫して自校方式にこだわって、それまでやらんといかんのかみたいなニュアンスにみえたので、この表現を、工夫しつつ円滑な移行に努めることぐらいに柔らかく書いておくほうが、手足を縛られないのかなと思った。

【事務局】そのあたりは、私どもからこう書いたほうがいいとか言うことはできないので、委員の皆様にお諮りいただいて、どういう書き方にするかを決めていただければと思う。

【会長】別紙の参考資料のほう、文言の修正があったが、1.「バイオレス」を「ウイルス」に、2.の「感じる」を「断じる」、「焦燥」を「尚早」に。そして、4.の「システムチック」を「システムチック」に修正することでよろしいか。それから、答申書のほうだが、附帯事項②-2の「建設すること。」については、個人的には、他の所が全て検討することと書いてあるので、同じように「検討すること」でどうかと思うがいかがか。④のところは、別の文言に変えた方がいいと意見があったが、皆様のご意見を願います。

【会長】例えば、文言を逆にして、「自校方式の維持に努めながら、円滑にセンター方式に移行すること。」ではいかがか。他に付け加えたり、ご意見はないか。

【委員】センター方式に移行することとなった場合は、結局、望ましいという今の段階では、必ず移行していくことになってくるのかなと、どちらが重点というか、センター方式に移行ということがより重要と受け止められたので、ちょっと違うのかなと思う。移行することが前提であればそれでいいと思うが。

【委員】この検討委員会は、あくまで答申をして、実際の権限を持たれる佐世保市の部署に、これでいいと思うんだという意見書である。例えば、右にと言ったから、右に行くというものではなくて、我々は右がいいと思うというだけである。

【委員】断定というかセンター方式に移行することとなるとどうなのかと思う。これはあくまでも工夫しながら自校方式の維持に努めるということがメインではないのか。ここに書かれていることは。

【委員】この文を作られた事務局に聞くのが早いと思うが、行政としてセンターを作るんだということ

が決まっているわけではない中で、諮問機関であるこの検討委員会では、センター方式にする、センターを作るといった方がいいんじゃないのというのが大前提。大前提がある中で、現状の運用について、段々齟齬が生じてくる自校方式の厨房。何十校もあるわけだから、普通に考えたらそれがポツポツ出てくるはずである。その中で、完全に移行するまでの間、何らかのことが生じた場合は、この文書だと、工夫しながらそれでもここで作ろうねという言い方に見えた。できるところはセンターで肩代わりできるのではないかと思った。あくまでも、センターに移行することは大前提で、それまでの過渡期中で、何らかの不具合や齟齬が生じた場合にどういう対応をするのかという時に、この委員会は、いや既存施設があるのだから既存施設をなんとか手直しして努力して頑張りなさいよと言っているように見えたので、そうではなくて、もうすでにセンターがあるのだから、そこで対応していいのではないですかという言い方。先ほど会長がおっしゃった文言でももちろんいいですし、この表現だと手足を縛られる言いかたと思った。センター方式への移行自体は、この会議としては前回で結論は出ていて、望ましいということをお願いしようねとできていると思う。大まかな流れはこれでいいと思っている。

【会長】 文言について、皆様のご意見を願います。

【委員】 工夫しながらという言葉は必要なのか。先ほど言われたように、何が何でもというのが、工夫しながらという言葉が縛るような感じに受け止められるのかなと思う。先ほどの円滑にとか、そういう言い方だと、できるところは工夫しながら、できないところはセンターのほうでアレルギー対応をすとかいうような、スムーズな円滑という言葉がいいと思う。

【会長】 ご意見があったように、工夫しながらの文言を削除して、センター方式に移行するまでは、自校方式の維持に努めることでよろしいか。

【会長】 事務局のほうで作成していただいた答申書案・別紙参考資料について、修正がかけられたところだが、この内容で答申書の作成をすることになるが、この後、細かい文言については、会長・副会長のほうで少し確認をさせていただいたうえで、答申できればと思っている。他にご意見ご質問はないか。

【事務局】 一つ確認だが、附帯事項④で、センター方式に移行するまでは、自校方式の維持に努めること。でよろしいと。さきほど言われた円滑なという言葉は含まない。

【会長】 そうである。

【事務局】 わかった。

【会長】 答申書案についてご意見ご質問がなければ、会次第の二つ目「意見交換」に入りたいと思うが、ご意見ご質問はないか。

【委員】 もしセンター化に向けて動きがあるようであれば、子どもたちが給食を食べるので子どもたちがメインだと思うが、子どもたち、保護者、地域の方々にきちんと説明はしていただけるのか。

【事務局】 確実に対応する。

【委員】 この会議は、給食センターで会を重ねてきて、最初は非常に資料作りにも苦慮されて、我々にわかりやすい資料がいくつか出てきて、給食センターの流れであるとか、給食費単価であるとかを含めて、いろいろ話をさせていただいたが、私は繰り返し申し上げていることだが、学校給食というのがどういう仕組みで成り立っていて、どういうお金の流れ・物の流れが、どの範囲を誰が負担して、どう工夫しているのか、私は商工会議所から来ているので、そういう言い方をすることもかもしれないが、

一般の保護者さんにも周知をする必要があると思う。もちろん衛生面は非常に大事なことでアレルギーも含めて子どもたちの健康を維持するという大目標に向けて、関わっている方々皆さん一生懸命お仕事されているのをよくよく理解したうえで、押し付けるということではなくて、ちゃんと子どもたちも保護者も、どういう流れで給食が口に入っているのか、私はPTA出身で、あしかけ十数年やったが、本当にいらっしやる。何のために手を合わせていただきますと言うのか分からないので教えてくれとか、ちゃんと給食費を払っているんだから、みたいな話をおっしゃる方が現実にいらっしやる。学校の現場で任に当たっておられる校長先生はよくご理解のことと思うが、面と向かって誰が金を払っていると思うの、というような方がほんとにいらっしやる。PTAの方がたくさんお見えなので、わざと申し上げているが、そういった方に、食材費は払っているんだが運営費は違うんだよみたいなことを、理論武装とまでは言わなくても、ちゃんと理解して、特にPTAの方々はおっしゃっていただく。それが、実際のお金お金と言うけれども、お金の問題じゃないでしょと言う人もいるが、でもお金がないと皆に安全な給食は口に入らないんだよ。そのための一つの方法としてセンターなんだよと。これは行政側の努力ももちろん頂戴したいわけだが、ここで傍聴されている方々も含めて、ぜひこの会はいききっかけになると思うので、学校に帰られて、仲間いわゆるママ友とおっしゃる方がたくさんいらっしやるでしょうし、市P連だけでなく単Pの中で、養護の先生もいらっしやいますし、校長先生、教頭先生、教務主任の先生もいらっしやいます、みなさんの力を合わせて保護者の方々へのご理解をどんどん進めていただければと思う。見た感じ、10年前と認識はあまり変わっていない。それは当たり前のことで、新しい方がお母さんになっていくわけで、知らない方がどんどん入ってくるわけだから、我々にとっては去年も言った一昨年も言ったということでも、初めて聞くという方が必ずいらっしやる。この議事録の公開もそうだと思うが、もっと情報周知に、ここに出席されている皆様を含めて行政側にもお願いをしたいと思う。

**【事務局】**今ご指摘をいただいた、口に入る給食のすべての流れ、正しい理解を保護者の方に、あるいは地域の方にしていただくのは大事なことであると思う。前にも給食費のことについてご説明を申し上げたが、食材費という考え方なのか、施設も人件費も入っているのか、そういった正しく理解をされないで議論をすると変な方向に行くということにも繋がりがねないので、いい機会だと思っている。どういった形になるかわからないが、答申をいただいた後に、学校、保護者、地域にも丁寧に説明をしないといけないと思う。その中では、給食の仕組みを含めてよく理解していただくことになると思うので、ご指摘の点は受け止めて、そのように配慮させていただきたいと思う。

**【会長】**教育委員会のほうで学校、保護者、子どもたちへも給食について、食育も含めて、給食費はこういうものに使われているとかそういった話をしていただく機会が出てくるのではないかと思う。

**【委員】**教育委員会のほうから、1年生の保護者には、毎年、こういう仕組みになっているというプリントが配られる。

**【会長】**1年生だけか。全学年か。

**【事務局】**毎年、給食費のお知らせをする時に、一緒に、給食費とは食材にだけかかっている分ですというお知らせは一応している。しかし、全学年に対してもっと詳しくしないといけないなど、話を聞きながら感じていたところである。

**【会長】**それ以外は、どんな所からお金がでているのか。いろんな補助もあっていると思う。そういったもので給食は作られているとわかるほうがいいと思う。

【委員】詳しくではないが、試食会が毎年あるので、その時には、保護者の方には、こうなっていますと話をしている。

【会長】来られた方だけは、そういう認識があるということ。

【委員】ここにいらっしゃる方は、単Pで活動されている方だと思うが、給食試食会は行かれた方が多いのではないかと思う。私が、小学校で4年、中学校でもっと長くした中では、望むべくは、すべての保護者が一回は試食会に来て欲しいという所が実際には思いとしてはあるが、事実上、給食の数を確保したり、あまり変動させないようにということで、記憶が間違っていなければ、修学旅行とか校外学習がある時に、そのクラス分の人数をやると。というようなことが多かったような気がする。そうすると、多くても全体の6分の1ぐらいしか、実際に召し上がっていただくキャパシティが無いわけで。中々難しいと思うが、むしろセンター方式にしたほうが、コントロールがしやすい。つまり、その学校の分を一定数増やすということがしやすいのではないかと素人的に考えるので、頻繁にというよりも、9年間の中で、少なくとも1回は概ねすべての保護者の方が、子どもが食べているものはどんなものなのか体験を。というのは、若いお母さんもいるかもしれないが、我々の時の給食はひどかった。最初にPTA会長して試食会と言われた時に、前の日寝れなくて、この年になって給食食べないといけないのかと思って、行ったら素晴らしく美味しくてびっくりしたという記憶がある。もちろん私のように偏食がひどくて、子どもの頃食わずに、掃除の時間になっても机が真ん中に残っているような、今はそのような子はいないと思うが、それでも、今の子どもたちが食べている給食が、いかに手が掛かり、心がこもって、コストもそれなりにかかって、バランスももちろん栄養士が見ておられるだろうから、味的にも非常に良いものが子どもたちの口に入っているかということは何ひご体験いただきたいと思う。それはセンター方式の方が、私はしやすいと思うし、今後そこらへんを充実していただけると、さきほどの情報公開のところもかねて、給食への理解が深まっていくと思う。

【会長】他にご意見、ご質問をお願いします。

【会長】それでは、意見がないようなので、意見交換をとどめさせていただきます。

【会長】諮問を受けて会議を重ねて貴重なご意見をいただいた。委員皆様のご協力に感謝する。学校給食は法によって安全で衛生的に配慮された給食作りが行われており、栄養管理そのものは栄養士の先生、栄養教諭の先生、調理をなさる方を含めて、衛生管理を含めて、要求されるものが大変多いように思われる。今回諮問を受けて協議、決定をしたことが、佐世保市の学校給食が必ずよりよい方向に進めていただきたいと委員の一人として望んでいるのでお願いしたい。

【会長】それでは本日は、教育委員会から諮問を受けていた「学校給食調理場の今後のあり方について」に対する答申案について最終協議を行った。これで、答申案の資料の案を削除した形になると思うので、この内容でよろしいかどうか最終的にもう一度ご了承いただいたというふうにさせていただいて大丈夫か。 ～～異議なし～～

では、事務局のほうで答申書を完成させていただきたいと思う。その後、会長・副会長において、教育長の方へ答申書を提出させていただきたいと思うが、ご了解いただけるか。 ～～異議なし～～  
以上で、議事を終了する。

◆事務局からの連絡事項

◆閉会

— 了 —